

19. 総合人間学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 52)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 53)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 総合人間学部生と人間・環境学研究科院生の交流の場として、平成 29 年度から人間・環境学研究科院生による総合人学部学生向け模擬講義企画「総人のミカタ」の開講を支援している。この取り組みは、多様な分野の大学院生がリレー式で、自らの学修経験とともに自らの研究を初学者である学部生にわかりやすく解説する講義である。本模擬講義は、特に 1・2 回生に対して、ロールモデルを提示することに貢献している。
- 物理学・化学・生物学・地球科学からなる多分野の教員が、同一の水域・地域を対象に自然科学的構造と動態を多面的・複合的に学ぶことを目的とする学際融合科目「総合フィールド演習」を提供している。

文系学生や他学部学生を含め例年 20 名程度の学生が参加し、参加学生からの高い評価を得ている。
- 学生・教員交流イベント「人間・環境学フォーラム」を春と秋の 2 回開催し、学部生に対しては特に秋にさまざまな分野の教員と話をする機会を設けている。また春・秋ともに教員や上回生との懇親会を設け、イベント以降に学部生が履修や進路等さまざまな相談を教員や上回生にしやすくなるようなネットワーク作りの環境を提供している。
- 多様な学術的文化的背景をもった外国人研究者を毎年 6 名程度、3～6 か月間、客員教授または客員准教授として招聘し、学生の教育・研究指導、国際交流（国際交流セミナー等）を通して、教育研究の国際性および本学教員の研究活動の活性化を行っている。平成 28～令和元年においては、総計 20 名の特任教員を招聘した。
- 高い学際性を備えた人材を育成するため、1 学科（総合人間学科）5 学系制をとる総合人間学部では、文系または理系として受験した学生が、入学後に自由に学系を選択することができる。学系選択後は、専門的な学識を深める主専攻のみならず、他の専攻を一つ選択して必修とする制度（副専攻制度）を設けており、卒業時には学位記とは別に副専攻名を記した認定書が発行される。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 学部生による各賞受賞は平成 28～令和元年度で 2 件である。筆頭著者での学会発表件数は 4 件、論文発表件数は 1 件である。また、主に教員免許などの受験者の資格取得率は 100% である。
- 在学中に培った「幅広い教養・知識」が役に立ったとする卒業生は 73% であった。さらに、73% が卒業論文・卒業研究を通して学んだことが役に立っていると評価しており、総合人間学部の特徴である副専攻については 87% の卒業生が「得るものがあった」と回答している。